

令和3年度（2021年度）一般選抜における
「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価について

はじめに

筑波大学では、令和3年度（2021年度）入試からすべての入試において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（以下、主体性等）」を評価することを平成31年3月に公表しました。

従前から、面接や自己推薦書を通して「主体性等」を積極的に確認及び評価を行ってきた推薦入試やアドミッションセンター入試等では、この方針を維持するとともに、今後、一般選抜（個別学力検査等前期日程・後期日程）においては、面接・小論文・適性試験等を活用（導入）するほか、調査書を点数化して利用することとしました。

調査書の点数化にあたっては、高等学校や志願者の不安や疑問を払拭するとともに、新しい実践や過重な負担を強いるものではないことを伝えるため、個別学力検査等前期日程（総合選抜）における評価項目及び基準を平成31年3月に公表しました。その後も高等学校関係者との対話を通じ、主体性等の評価方法について検討を重ねた結果、新たに「賞・資格等」に係る評価項目や調査書が提出できない者への配慮等の方針を決定しました。

また、すでに実施方法や配点を公表した個別学力検査等前期日程（学類・専門学群選抜）及び後期日程における主体性等評価について、調査書を利用する場合の評価項目及び基準を決定しましたので、下記のとおり、公表します。

I. 個別学力検査等前期日程（総合選抜）における「主体性等評価」

I-i. 前期日程（総合選抜）では、「主体性等評価」の資料として、高等学校等から提出された「調査書」の記載事項を点数化して利用します。

選抜区分	前期日程 (総合選抜)
文系	調査書
理系Ⅰ	調査書
理系Ⅱ	調査書
理系Ⅲ	調査書

I-ii. 調査書の評価項目及び基準

前期日程（総合選抜）では、具体的な評価項目を定めます。評価対象は以下の5項目で、調査書にはこれらに対応する記載欄があります。

- ① 学習等
- ② 部活動・ボランティア・留学等
- ③ 特別活動（生徒会・委員会・クラス係等）
- ④ その他の活動等
- ⑤ 賞・資格等

詳しくは、平成 31 年 3 月に公表したとおりです。(別紙参照)

また、新たに決定した点は以下のとおりです。

(ア) 評価項目④「その他の活動等」における評価対象について

評価項目④「その他の活動等」については、主として「7. 指導上参考となる諸事項 (6) その他」欄に記載された事項を中心に「校内・校外を問わず」に「具体的な活動の記載」の有無という観点から評価をします。当該記載欄は「生徒が自ら関わってきた諸活動、生徒の成長の状況に関わる所見など、特に必要と認められる事項等について記入すること」となっております。そのため、さまざまな活動について記載されることが予想され、現状でも活動の一つとして、本学のオープンキャンパス(「受験生のための筑波大学説明会」等)や他大学のオープンキャンパス等への参加を当該欄に記入する事例が見受けられます。このようなオープンキャンパス等への参加については、本学では評価の対象とはしませんのでご注意ください。

(イ) 評価項目⑤「賞・資格等」で高い評価となる「全国的な評価」について

平成 31 年 3 月の「総合選抜における『主体性等評価』について」において、評価項目⑤「賞・資格等」で高い評価となる例として、「全国的な評価が 1 つある」ことを示し、その「全国的な評価」に対応する具体的な部活動や学習に関連する賞・資格等について、引き続き検討を進めてきました。現時点で決定している事項は以下のとおりです。

● 「部活動等に関連する賞・資格等」について、令和 3 年度入試においては⑤「賞・資格等」の評価の対象から外します。

全国高等学校体育連盟が主催する全国大会への出場を事例として検討を続けてきましたが、高等学校等の先生方から全国高等学校総合文化祭への出場を対象としないことの是非について、また同じ全国高等学校体育連盟主催の全国大会であっても競技人口の多寡によって出場の難易度に差があるといった指摘がありました。これらのご意見を踏まえ検討を続けてきましたが、指摘された不公平感の払拭は容易ではないと判断しました。令和 3 年度入試においては、部活動等に関する賞・資格等については⑤「賞・資格等」の評価の対象とはせず、この項目を適切に評価する方法について引き続き検討します。

● 「学習等に関連する賞・資格等」について、全国大会出場を基準にした具体的な要件を引き続き検討します。

国際科学オリンピック全国大会出場を軸に検討を続けて参りました。この基準は本学が実施している「国際科学オリンピック特別入試」の出願要件に概ね準拠しています。しかし、一次予選で補欠となり、その後繰り上がって全国大会に出場を果たしている例などがあり、高等学校等で全国大会出場が把握できずに調査書に記載漏れが生じることも考えられます。そこで、全国大会出場を基準にした具体的な要件について引き続き検討し、できるだけすみやかに公表したいと考えます。

● 「その他の賞・資格等」について、該当する検定試験および級位は以下のとおりとします。

校長会等が実施する検定試験を評価の対象として検討した結果、以下のとおりとします。なお、対象となる検定試験は今後追加する場合があります。(括弧内は実施団体名)

- ・日本農業技術検定（日本農業技術検定協会）：3級以上
- ・計算技術検定（公益社団法人全国工業高等学校長協会）：1級
- ・情報技術検定（同上）：1級
- ・パソコン利用技術検定（同上）：1級
- ・グラフィックデザイン検定（同上）：1級
- ・情報処理検定試験（公益財団法人全国商業高等学校協会）：ビジネス情報部門 1級またはプログラミング部門 1級
- ・簿記実務検定試験（同上）：1級
- ・商業経済検定試験（同上）：1級
- ・高等学校海洋情報技術検定（全国水産高等学校長協会）：1級
- ・高等学校栽培漁業技術検定（同上）：1級
- ・高等学校潜水技術検定（同上）：1級
- ・高等学校エンジン技術検定（同上）：1級
- ・全国高等学校家庭科被服製作技術検定（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会）：和服 1級または洋服 1級
- ・全国高等学校家庭科食物調理技術検定（同上）：1級
- ・全国高等学校家庭科保育技術検定（同上）：1級

I-iii. 自己申告の登録について

総合選抜の志願者に「自己申告」への登録を求めます。

インターネット出願時に、調査書の内容に関する、簡単な質問項目を設定します。

なお、「自己申告」で登録された内容について、下記のとおり利用します。

(ア) 新様式の調査書を提出する者

調査書を評価する際に自己申告と照合することで採点ミスを無くすため、補助的に利用します。自己申告内容と調査書に記載された内容に違いがあった場合には、採点の点検・確認を行ったうえで、一部の項目について自己申告をもとに配慮を行う場合があります。

(イ) 旧様式の調査書を提出する者

提出された調査書の記載内容を評価し、自己申告の内容を補助的に利用します。旧様式で提出したことによって不利益が生じることがないように、自己申告内容と調査書に記載された内容に違いがあった場合には、採点の点検・確認を行ったうえで、自己申告をもとに配慮を行う場合があります。

(ウ) 調査書が提出できない者

調査書が提出できない志願者の主体性等の評価は自己申告に基づいて行います。その際、自己申告の他に活動報告書の提出を求める場合があります。また、調査書を提出できない者の「賞・資格等」については証明書等の提出を求めます。

II. 個別学力検査等前期日程（学類・専門学群選抜）及び後期日程における主体性等評価

II-i. 個別学力検査等前期日程（学類・専門学群選抜）及び後期日程では、学群・学類によって面接・小論文・適性試験・調査書等、異なる方法で主体性等を評価します。（下表参照）

調査書により主体性等を評価する、II-ii. (ア) の学群・学類では、前期日程（総合選抜）と同じ、もしくは準じた評価基準とします。II-ii. (イ)～(オ) の学群・学類では、前期日程（総合選抜）とは異なる独自の評価基準とします。

学群・学類		前期日程 (学類・専門 学群選抜)	後期日程	調査書の扱い
人文・文化 学群	人文学類	調査書	小論文	前期：(ア)総合選抜と同じ
	比較文化学類	調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
	日本語・日本文化学類			-
社会・国際 学群	社会学類	調査書		前期：(イ)学類独自の評価
	国際総合学類	調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
人間学群	教育学類	集団面接	集団面接	-
	心理学類	集団討論	集団討論	-
	障害科学類	集団討論	集団討論	-
生命環境 学群	生物学類	調査書	個別面接	前期：(ウ)学類独自の評価
	生物資源学類	調査書	個別面接	前期：(エ)学類独自の評価
	地球学類	調査書	志望動機書、個別面接	前期：(ア)総合選抜と同じ
理工学群	数学類	調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
	物理学類	調査書	小論文、調査書	前期・後期：(ア)総合選抜と同じ
	化学類	調査書	個別面接	前期：(ア)総合選抜と同じ
	応用理工学類	調査書	個別面接	前期：(ア)総合選抜と同じ
	工学システム学類	調査書	個別面接	前期：(ア)総合選抜と同じ
	社会工学類	調査書	小論文、調査書	前期・後期：(ア)総合選抜と同じ
情報学群	情報科学類	調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
	情報メディア創成学類	調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
	知識情報・図書館学類		小論文	-
医学群	医学類	適性試験		-
	看護学類	個別面接、調査書		前期：(ア)総合選抜と同じ
	医療科学類	個別面接		-
体育専門学群		調査書		前期：(オ)専門学群独自の評価
芸術専門学群		実技	面接・口述試験	-

II-ii. 調査書の評価項目及び基準

(ア) 総合選抜と同様の評価項目及び基準を採用する学群・学類

人文・文化学群（人文学類、比較文化学類）

社会・国際学群（国際総合学類）

生命環境学群（地球学類）

理工学群（数学類、物理学類、化学類、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類）

情報学群（情報科学類、情報メディア創成学類）

医学群（看護学類）

(イ) 社会・国際学群社会学類での調査書の評価項目及び基準

社会学類での評価対象は以下の2項目とします。

- ① 学習等
- ② 部活動・ボランティア・留学等

評価方法は以下のとおりです。

項目	新調査書での該当する記載欄	高い評価となる例
①学習等	「7. 指導上参考となる諸事項(1)学習における特徴等」、「7. (2)行動の特徴、特技」	(1)または(2)に肯定的な評価が3年分記載されている。
②部活動・ボランティア・留学等	「7. 指導上参考となる諸事項(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等」	具体的な活動の記載(部活名等)が2つある。

(ウ) 生命環境学群生物学類での調査書の評価項目及び基準

生物学類での評価対象は以下の1項目とします。

- ① 学習等

評価方法は以下のとおりです。

項目	新調査書での該当する記載欄	評価基準
①学習等	「7. 指導上参考となる諸事項(1)学習における特徴等」、「7. (2)行動の特徴、特技」	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢を含め、適性に関する記載の有無を評価する。

(エ) 生命環境学群生物資源学類での調査書の評価項目及び基準

生物資源学類での評価対象は以下の2項目とします。

- ① 学習等
- ⑤ 賞・資格等

評価方法は以下のとおりです。(総合選抜と同様)

項目	新調査書での該当する記載欄	高い評価となる例
①学習等	「7. 指導上参考となる諸事項(1)学習における特徴等」、「7. (2)行動の特徴、特技」	(1)または(2)に肯定的な評価が3年分記載されている。
⑤賞・資格等	「7. 指導上参考となる諸事項(4)取得資格、検定等」、「7. (5)表彰・顕彰等の記録」	(4)または(5)に全国的な評価が1つある。外部英語4技能試験は大学入学共通テストの一部として扱うので評価しない。

(オ) 体育専門学群による調査書の評価について

体育専門学群での評価対象は以下の5項目とし、次のとおり評価します。

① 保健体育の評定

保健体育の高等学校在籍期間中の評定を評価します。

② 部活動もしくは校外でのクラブ活動

役職経験を評価します。

③ 生徒会活動

役職経験を評価します。

④ 留学・海外経験

期間が明記されたもので、一定期間以上の経験を評価します。

⑤ ボランティア活動

授業や部活動等の一環で行われた活動を除き、それら以外で自発的に行った活動を評価します。

II-iii. 自己申告の登録について

個別学力検査等前期日程（学類・専門学群選抜）及び後期日程において、調査書を点数化する学類・専門学群の志願者に「自己申告」への登録を求める場合があります。詳細は引き続き検討します。

III. JAPAN e-Portfolioの扱いについて

令和3年度（2021年度）入試において、本学ではJAPAN e-Portfolioを利用しません。

総合選抜における「主体性等評価」について

1. 「主体性等評価」に対する考え方

いわゆる学力の 3 要素は小学校の目標を定めた学校教育法第 30 条第 2 項に規定され、これは中学校、高等学校（および中等教育学校）でも準用されています。さらに中央教育審議会の「高大接続改革答申」や文部科学省の「高大接続改革実行プラン」においても、この 3 要素は「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」から構成されるとして、大学はこれらを培ってきた高校教育の成果を踏まえた選抜を行うよう提言されています。

このような背景を踏まえ、筑波大学では、2021 年度入試（2020 年度実施）から『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（以下、主体性等という）』を一般選抜でも評価します。一方、主体性等評価、特に調査書利用に対する理解が十分に深まっていないことから、この評価は慎重に行う必要があります。同時に、主体性等評価に過剰に対応した活動によって、通常の学びが妨げられることがあってはならないと考えます。

そこで、2021 年度一般選抜前期日程の総合選抜において、以下のように主体性等評価を行うことにします。

2. 総合選抜における主体性等の評価方針

筑波大学は様々な入試を実施しています。推薦入試やアドミッションセンター入試では従来から主体的な取り組みを重視した選考を行ってきています。一方で、主体的な学びの成果は、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」からも十分に測ることができることから、一般選抜においてはこの二つを重視して実施してきました。一般選抜として導入する総合選抜においても、引き続き、これらに重きをおいた選抜を行います。そのため、主体性等評価の配点は、総点のおおむね 2% とすることにしました。

・調査書を評価します。

原則として証明書等の提出は求めません。ただし、調査書を提出できない場合は、活動報告書や証明書の提出を別途求めることがあります。

・通常の学びを重視します。

最も重要な主体性は学校内での日常的な学びにあると考えています。総合選抜における主体性等評価は、際立った活動歴や活躍、特別な資格の提示を強いるものではありません。

・評価項目を設定します。

高等学校等の負担増とならないよう、新旧の調査書に対応した具体的な項目と観点を設定して採点します。従来どおりの教育活動でも十分な得点が得られるような採点基準を設けます。

・文章の表現や量は関係ありません。

主体性等評価は、生徒本人の学習や活動等の事実を客観的に評価するものです。簡潔な文章や単語等であっても事実確認ができれば、評価します。

・受験生に配慮した評価を行います。

現状では主体性等の評価方法が十分に確立されているとはいえません。また、旧調査書を提出する既卒者や調査書を提出できない者についての配慮も必要です。そこで、志願者の自己申告を補助的に利用すること等も検討しています。

・より良い高大接続を目指します。

調査書は受験生が過ごした高校生活を示してくれる貴重な資料です。単に選抜のために評価するのではなく、調査書で評価することを通じ、学びを引き継ぐ大学として受験生本人や高校教育を理解するために活用します。今後新しい学習指導要領や調査書の様式の再々改訂が控える中、調査書を活用した主体性等評価を通じて、高校教育の現状や改革の動向について理解を深めつつ、より良い高大接続を目指し、これからも入試改革を進めていきます。

3. 総合選抜における具体的な評価の項目と基準

この主体性等評価では、具体的な評価項目を定めます。評価対象は以下の5項目で、調査書にはこれらに対応する記載欄があります。

- ① 学習等
- ② 部活動・ボランティア・留学等
- ③ 特別活動（生徒会・委員会・クラス係等）
- ④ その他の活動等
- ⑤ 賞・資格等

主体性等評価は、高等学校等での日常的な学習や活動等を評価するものです。したがって、①から④については、通常の授業や高校生活の様子、一般的な課外活動について評価しますので、高等学校等に対して新たな教育実践や特別な取り組みを求めるものではありません。また、⑤については、きわめて多様な記載が考えられます。この項目については、公平で正確な判断をするため、明快で高い基準を設けることとします。

配点については、①と②で総計の3分の2以上の得点とすると同時に、⑤の割合を低く設定することで、日頃の学習の様子や活動が記載されていても十分高得点が得られるようにします。

評価については、肯定的な内容や具体的な活動といった事実の記載の有無を主たる判断基準とします。記載された文章の表現や量は評価と関係ありません。

調査書作成における注意点

以下のような評価方法を予定しています。ただし、具体的な評価例については、変更される場合がありますので、ご注意ください。

記載内容については、従来に比べ大きな変更を求めるものではありません。客観的な基準を設けて諸活動の事実を評価しますので、簡潔な文章で記入してください。活動事実が分かれば、箇条書きや体言止めによる記述でも問題ありません。ただし、否定的な記載、「特記事項なし」という記載、空欄については、評価しません。1つの活動が複数の項目に該当する場合は、それぞれの欄に記入することができます。

旧調査書を提出する既卒者や調査書を提出できない者についても同等の評価方法としますが、実情に合わせた措置により不利にならないように配慮します。

項目	新調査書での該当する記載欄	高い評価となる例
①学習等	「7. 指導上参考となる諸事項(1)学習における特徴等」、「7. (2)行動の特徴、特技」	(1)または(2)に肯定的な評価が3年分記載されている。
②部活動・ボランティア・留学等	「7. 指導上参考となる諸事項(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等」	具体的な活動の記載(部活動名等)が2つ(2年分)ある。
③特別活動（生徒会・委員会・クラス係等）	「6. 特別活動の記録」	生徒会やクラス係を問わず、具体的な活動の記載(役職名や係名等)が1つある。
④その他の活動等	「7. 指導上参考となる諸事項(6)その他」（内容によって「5. 総合的な学習の時間の内容・評価」や「8. 備考」も使用する場合がある）	校内・校外を問わず、具体的な活動の記載が1つある。
⑤賞・資格等	「7. 指導上参考となる諸事項(4)取得資格、検定等」、「7. (5)表彰・顕彰等の記録」	(4)または(5)に全国的な評価*が1つある。外部英語4技能試験は大学入学共通テストの一部として扱うので評価しない。

*「全国的な評価」については、現在以下のような項目を採用予定ですが、引き続き検討していきます。

部活動等：(例) 全国高等学校体育連盟が主催する全国大会に出場した者

学習等：(例) 国際科学オリンピックで全国大会に出場した者

資格等：(例) 校長会等が実施する検定試験（全国工業高等学校長協会の情報技術検定試験1級等）